

江戸城 かわら版

NPO 法人 江戸城天守を再建する会

<こんてんつ>

対談「その時歴史が動く」…1～3	
島田理事長「再建への近道」……3	
会員状況&財政状況 ……4	
黒田涼散策が仆・他 ……5	
会員のひろば ……6	
新入会員・寄付者一覧 ……7	
イベント報告・その他 ……8	

平成 29 年 7 月 20 日 第 44 号

新しく生まれ変わった NPO! 国民的運動へ向け

『今、その時歴史が動く』

100万人賛同署名運動実施中!



左から太田会長、吉田理事、松平特別顧問、

対 談

(敬称；略)

松平 定知	京都造形芸術大学教授 元NHKキャスター(「そのとき歴史が動いた」)
吉田 誠男	日本橋みゆき通り街づくり委員会会長、榎伊場仙社長
太田 資暁(司会)	NPO法人太田道灌顕彰会理事長、NPO法人江戸城天守を再建する会会長

——今お城ブーム、城ガールなど多様な楽しみ方——

太田 今、各地で城ブームが起きており、城好きの人たちが多くに驚いています。各地の城で、城ガールはパワースポットだと感じ、パワーをもらいに来ている等、楽しみ方もいろいろあるようです。

松平 城ブームのおかげだと思うのですが、ある出版社で『一城一話』の連載をしています。一つのお城で一つの話をするのですが、お城の建造物や縄張りについては城好きにはたまらない話題ですが、一般論で言えば、やはり歴史は人間が織りなすドラマですから、人の影が必須だなあと感じています。

吉田 私の小学校の孫は城が好きで去年、大阪城、姫路城、名古屋城へ行っています。やっぱり、孫からは「なんで東京に城がないのか？」と聞かれると絶句です。



(次ページへつづく)

②——東京の都市づくりに「文化・歴史の核」が必要——

太田 この波を継続させ、江戸城天守の再建へつなげるためにも、東京の都市づくりには、文化・歴史の核が必要です。

松平 文化・歴史の核といえば、「江戸城」でしょう。ただ、江戸城に天守がないことを知っている人は意外に少ない。私たちの天守再建の運動は、明暦の大火で焼けた天守を再建することで、「繰り返し、繰り返し」、あそこ(天守台)には天守があったのですよと言っていくことが、この運動の基本になると思っています。

太田 東京の人には喪失感がないんですよ、熊本城の様に。

吉田 私は扇子の商売をしています。城という核がないとお茶、お菓子、能とか文化的なことが広がらないんですよ。

太田 江戸幕府の作事方大棟梁・甲良家に伝わる寛永度天守の設計図「建地割図」(テジワズ)が1枚残っている。この図面を一つの根拠に、私たちは天守再建運動をしています。

吉田 東京都中央区に宮大工の老舗があり、建築がないと技術が廃れてしまうということです。

太田 林野庁の方の話では、日本の山は放っておくとあれてしまうので、間伐をしなければならないとのこと。江戸城を再建するには、約2万本の木が必要で、林業の発展の為にも、天守再建を目指さなければならない。



——オリンピック後の日本を元気にする起爆剤を！——



松平 オリンピック後、日本は外国人観光客を引きつける目玉に苦慮しています。世界規模のスポーツ大会の誘致とか、万博開催とかが言われていますが、これも一定期間開催が終わればそれで終わり。首都・東京で、長く人々を引き付ける素材の一つとして存在するのが、江戸城天守の再建だと思っているのです。「オリンピック後も、頑張るぞ」です。

吉田 観光資源として、江戸城天守だけでは、インパクトが少ない。日本橋の常盤橋付近の回遊コース整備など、オリンピック後を見込んだ視点が欠かせない。

太田 ここ2~3年観光客が1000万人ほど増えていますが、これは爆買い効果ですよ。

松平 「ハハハ」

太田 “爆買い”は長続きしない。文化とか、尊敬するものがなければ、続かない。政府の観光諮問会議は、2020年に観光客を4000万人に、2030年には6000万人にすると発表したが、オリンピック後のことは政府も当然考えていると思う。このような環境の中で、NPOは「世論を盛り上げる」ことに取り組んでいきたい。

——世論を盛り上げ、国民的運動を起こすのはNPOが最も馴染む——

松平 ドイツの王宮再建の事例がある。国民運動を背景にして、議会を動かし、国家事業にした。江戸城の再建も目指すところは同じだ。ここの英知を結集して、国家プロジェクトにしなければならない。

太田 ドイツはNPOから始まった。

吉田 プロパガンダが足りない。江戸城再建に向けて、いろいろ行うことがあるが、今、重要なのは、2020年の大河ドラマだ…太田道灌。最後のシーンは明暦の大火で、江戸城天守が燃えるシーン。その喪失感を…。

太田 大河ドラマで江戸城を盛り上げ、それに伴い色々な番組が出来て、「燃えた」天守も、大きな話題になります。

松平 明暦(3年1月)の大火で、江戸市内の3分の2は焼けて、10万人が死んだという時に、家光と家綱の2人の将軍を補佐した保科正之は、天守閣再建話に「(こんな悲惨な状態の)今は、その時にあらず」といった。でも、それから360年経って、「今はその時」だと思う。その時歴史が動く。江戸のシンボルを、東京の、日本のシンボルを…。

吉田 うちも明暦の大火で燃えてしまった。その前日まで、天守が見えていた。江戸の市中から、まちから。保科正之が言ったから、江戸の町はみんなで協力し復興した。

松平 江戸時代にも、保科正之のような立派な人はきちんと存在するんです。新しい明治時代は良い時代で、古い江戸時代は悪い時代という、おかしい価値観があったと思います。

太田 その通り。

松平 日本の今の繁栄を築いたのは、明治時代より、むしろ江戸時代なんだと私は思うんですね。江戸時代にその基礎があった。例えば、鎖国政策は近代化の目を摘んだというけれど、世界に対して全部門戸を閉ざしていたわけではないのです。「江戸四口」といって、長崎や薩摩や対馬や松前では、必要に応じてその門戸は開いていました。それなりの情報は入っていたのです。「世界の孤児状況」ではなかったのです。でも国として、外国からの脅威にさらされることなく、内政に力を注ぐという方針のもとに鎖国をしたことで、例えば、北前船に代表される舟運が大いに開け、日本経済を活性化し、陸路も早々と五街道を整備しました。17、18世紀にあれだけのものができていたのは、世界でも珍しいと思います。それに、上下水道の分別整備は、江戸の町の利便性と衛生状態を飛躍的に向上させました。巴里やロンドンといった世界を代表する街は、その頃はまだ「糞尿まみれ都市」だったことを思えば、清潔都市・江戸は世界一暮らしやすかった。そういう意味で言えば、明治時代に近代国家・日本を推進する力になったその力は、江戸時代のうちに貯めて



いたということです。

吉田 やはり江戸は、世界最高の都市です、清潔で。

太田 保科正之ですが、あのような名君が今、あまり知られていないというのは、会津の初代藩主だから、抹殺されたのですよね。

松平 そうかもしれません。歴史を読むとき、絶対してはいけない姿勢は、勝った者の目線でものごとを見ることです。勝者の視点で歴史を見るな、ということです。

太田 そうですね。

——マスコミ、IT を活用した情報展開が必要——

太田 これからマスコミは無論、ITを活用した情報展開が必要です。また各地の再建を目指すお城と提携して、シンポジウムやイベントを開催するので宜しくお願いします。

松平 運動としては、再建を目指す城だけでなく、姫路や名古屋といった一応再建なった城も含めて、要するに全国の城と連携を持って事業を推進してゆくことが必要だと思います。

太田 江戸城と東京駅と日本橋を結んだ、歴史的回遊ゾーンをつくって…。周りの神楽坂、神保町と連携する都市計画が必要です。

吉田 日本橋、常盤橋、そして江戸城を回遊する…。日本橋の再開発も40万人位の賛同署名を集め、衆参両議院にも働きかけています。

太田 経済戦略特区を創るという案も浮上しています。皆さんと力を合わせて、江戸城天守再建の夢を実現させたいと思いますので、よろしくお願い致します。今日はありがとうございました。



就任して4か月、いま思うこと

***** 天守再建への近道は *****

理事長：島田昌幸

梅雨の合い間を縫って、皇居東御苑を散策した。

大手門から入って、百人番所前を通り、果樹古品種園、富士見櫓を巡る。

松の廊下跡を経て、富士見多聞から蓮池濠をのぞく。

出てくると、色鮮やかなアジサイ群が迎えてくれた。

本丸跡地の青々とした芝生を突っ切って、天守台に向かう。

平日の昼時なのに人出が多い。圧倒的に外国人だ。

宮内庁の調べによると、昨年1年間の入場者は145万人を超え、そのうち4割が外国人だったそうだ。

天守台に登る。本丸跡の先に、丸ノ内のビル群が広がる。振り返ると日本武道館の緑青がふいた屋根が見える。

ここに高さ45mの寛永度天守が建っていた。日本一の天守。さぞかし壮観だったろう。

江戸城の天守は、鉄砲狭間や石落としがなく、攻撃性がなかったという。

泰平の世を切り拓いた自負と永続する平和への意志。



この築城の精神が、江戸—東京と続く都市発展を支えたのだらうと思う。

私たちNPOは、約360年の空白を経て、明暦の大火で焼失した寛永度天守を再建しようと運動を進めている。だいぶ運動の認知度は高まってきたが、素直なところ、実現への道のりはまだまだ遠い。

皇居東御苑という場所の特殊性だけを考えてみても、ハードルの高さは並大抵ではない。

天守台に登って、つくづく考えた。だからNPOの原点に立った運動が、今こそ必要なのだ、と。

会員同士の交流を深めて「ワイワイガヤガヤ」やりながら、地道に訴えかけを続け、天守再建への共感の輪を広げる。世論の盛り上がりこそが、実現への推進力になるだろう。

雑音はある。だが私たちは、迷わずにNPO本来の道を真っ直ぐ進みたい。結局それが、近道になるのだ。



新規会員紹介と100万人賛同署名獲得の取組

1 新規会員紹介キャンペーン開始 (キャンペーン期間：7月1日～12月31日まで)

会員一人が、一人の新しい会員の紹介をお願いします。入会金「なし」の特典付きです(3,000円は免除)
(新装となった「新規会員募集」用紙をご利用ください。同封しました)

2 100万人賛同署名獲得全国運動開始

100万人賛同署名獲得を目的に「支部」を設置(地域、企業、団体、大学等を単位に「支部」をスタートします)
各地域等での支部長引き受けのお返事を、お待ちしております。

(賛同署名累計実績 31,778 筆、今年の実績： 3,230 筆) (平成29年5月31日現在)

※ 賛同署名用紙(10名用、5名用)は、ホームページからダウンロードできます(アドレスは裏表紙に記載)
または、事務局までご請求ください。

当会の財政基盤の健全化のために

1 島田新体制の下で赤字体質からの脱却を!

平成28年度の当会の収支決算は607万円の赤字でした。島田新体制の下で江戸城天守再建の世論喚起を目指し、積極的な運動を展開していくためには赤字体質からの脱却が求められています。

2 会員一人がひとりの新会員を!

そのためには、収支の赤字をもたらした会費及び寄付金収入の減少傾向に歯止めをかける必要があります。平成29年度の事業計画で、「会員一人がひとりの新会員を」と呼び掛けているのは、会員一人ひとりのお力により会費収入を拡大し、赤字体質からの脱却をはかりたいとのお願いでもあります。

3 寄付金は当会の運動を支えてきた重要な財源!

個人及び法人からの寄付金は、会費収入と並んでこれまでの当会の運動を支えてきた財源として、重要な役割を果たしてきました。当会の活動が今日に至ったのは、ひとえにこれまでにご寄付をいただいた多くの皆様の多年にわたるご協力の賜物であります。ここに厚く御礼を申し上げますとともに、新体制発足に当たり引き続きなお一層のご協力を賜りますよう、お願い申し上げます。(ご寄付用の「払込取扱票」を同封しました)

《寄付にあたり税制上の優遇措置を受けたい方へ》

◆寄付金の税制上の優遇措置が復活しました!

平成23年4月以来当会は、認定NPO法人として寄付金の税制上の優遇措置を受けてきました。昨年、一般財団設立に関連して認定NPO法人の継続申請をしないことにしたため、本年4月15日以降税制上の優遇措置が受けられなくなりました。しかし、新体制のもとで種々検討した結果、この7月から公益財団法人公益推進協会の「日本の絆」基金を経由した寄付をすることにより、従来と同様の寄付金の税制上の優遇措置が受けられることになりました。

◆公益財団法人公益推進協会「日本の絆」基金宛の寄付で!

一口1万円以上の寄付で、「日本の絆」基金宛に寄付をしていただければ、個人及び法人について税制上の寄付金の優遇措置を受けることが出来ます。個人については、寄付金額が2000円を差し引いた額の40%(所得税に住民税を合わせると寄付金額1万円の場合4,000円、10万円の場合49,000円)が税額から差し引かれます。法人については、一般寄付金とは別枠の損金算入が認められます。(詳細は江戸城ホームページ<<http://np0-edojo.org>>、及び公益財団法人公益推進協会ホームページ<<http://kosuikyo.com/>>をご覧ください。)



黒田涼の「江戸城散策ガイド」シリーズ

第1回

<皇居東御苑・江戸城本丸コース>

今号からしばらく、江戸城の散策コースをご紹介します。広大な江戸城全域ははととてもとても1日では回りきれません。半日コースを基本にどなたでも歩けるコースにしますので、ぜひみなさん、これを参考にお出かけください。

- ◆さて初回は江戸城の核心、皇居東御苑となった本丸を歩きます。スタートは東京メトロ竹橋駅です。大手町駅側の改札から地上に出ると、和気清麻呂像があります。お堀越しに見える平川門は東御苑出入りの一つ。月曜と金曜はお休みなので注意しましょう。
- ◆門内の守衛所で入園票を受け取って入園します(無料)。くねくねと歩いて行くと、坂があります。梅林坂です。急坂を登り切ると本丸で、奥に我が会が天守再建を目指す巨大な天守台があります。上まで登って下さい。降りましたら大奥跡を眺めながら左手の建物、楽部の方へ向かい、奥の汐見坂を下ります。二の丸庭園がありますのでぐるっと散策しましょう。手入れが行き届き、季節の花々が美しいです。
- ◆また汐見坂に戻り本丸へ。左手の休憩所で一休みし、その裏にある展望台へ行きます。かつて台所前三重櫓があった場所で、丸の内方面が一望です。降りたら本丸御殿跡の芝生を横切って最近公開が始まった富士見多間を見学し、松の廊下跡へ行きましょう。さらに奥には富士見三重櫓が間近に見られます。
- ◆中雀門跡から、大名の登城ルートとは逆に本丸を出て行きます。大番所、中之門跡、百人番所、大手三の門跡、同心番所を経て三の丸に出ます。ここには休憩所と皇室所蔵の美術品などを展示する三の丸尚蔵館があります。無料なのでぜひご覧下さい。最後に戦後再建された大手門を出て終了です。



中之門跡、百人番所、大手三の門跡、同心番所を経て三の丸に出ます。ここには休憩所と皇室所蔵の美術品などを展示する三の丸尚蔵館があります。無料なのでぜひご覧下さい。最後に戦後再建された大手門を出て終了です。

◆【ご案内】座学:8月26日(土)、散策:9月30日(土)、→詳しくは別添のチラシをご覧ください。



<静岡第一支部だより>

平成29年5月14日

東御苑と石垣見学会について

私たち、沼津市(旧戸田村)の戸田史談会は40年前に設立し、今日まで継続してきました。これも、戸田地区には慶長時代から江戸城築城石の産出地として多くの石丁場遺跡が点在しています。歴代の戸田史談会会長が石丁場遺跡を調査しては報道関係に情報を提供してきました。標識石には「これよりにし 細川越中守石場」と「鍋島信濃守」は45年ほど前に発見、「細川越中守」と「鍋島信濃」平成21年1月発見しました。調査していきますと、江戸城内の石垣に戸田から産出した石が学術的、科学的調査の結果、戸田産出と判明しました。数多の石垣の中で産出と使用されている石材が一致したのが初めてのことと調査した先生が調査票を戸田史談会に提供してくれました。このようなことから戸田史談会は、5月14日3回目の東御苑と江戸城石垣見学会を、会員の黒田涼先生に案内人をお願いし、またNPO法人江戸城天守を再建する会からは、専務理事・百瀬光正様、初鹿彰信様お二人も案内をしていただき開催しました。戸田の石丁場遺跡の同じ刻印があると興奮していました。約2時間強の散策で、最後に皇居2重橋をバックに記念写真を撮り、帰途につきました。江戸城再建天守を再建する会の皆様、江戸城の石垣の故郷に見学に来て下さい。戸田史談会でご案内いたします。(この件のご連絡は事務局まで)



■岩本町ファミリーバザールで<100万人署名活動>実施

テレビ東京のアド街ック天国の放映があり、ものすごい人出！当会の署名活動の場面も。

今春も地元岩本町の方々のご協力を得、第76回のファミリーバザールに出展し、署名活動を行いました。これまでややマンネリ化した感がありましたが、5/27(土)にこのファミリーバザールの様子が「アド街ック天国」で放映されると、翌日から都内・近県からもものすごい人出で賑わいました。お蔭様で署名にご協力いただける方々が鈴なりになることもあり、ここで署名活動を始めて以来の新記録を達成。何んとその日だけで837筆の署名をいただきました。後半はたいへん天気にも恵まれ、テレビ東京の放映効果もありたいへん好調な署名活動ができました。結局6日間総計で、まさに手応え十分の2,628筆の実績。署名していただいた方々に、またボランティアのみなさんに、心から感謝します。(三井)



ありがとうございます



日青木材株式会社
東京大分物産株式会社
油絵肖像画のニッセイ美術

代表取締役 青木 行雄

東京都江東区新木場3丁目9番9号
〒136-0082 電話 03(3522)1181 番(代表)
03(3522)0931 番(代表)
FAX 03(3522)1184 番

名代あんこう鍋

いせ源

都内唯一軒のあんこう料理専門店
創業天保元年(1830年)

◆伊藤滋先生を囲む勉強会(東京大学名誉教授)



4/27 千代田区九段のかがやきプラザで、島田理事長以下大幅に入れ替わった理事会メンバーが特別顧問の伊藤滋教授を囲んで勉強会を開催。伊藤教授は日本の都市計画学会をリードしてこられた先生です。



世界から「人・モノ・カネ」を呼び込む都市づくりのため、東京の歴史と文化を象徴する存在となる施設として江戸城天守の再建が必要であると提唱されています。(寺村)

※なお5/13に「三浦正幸先生(広島大学大学院教授)を囲む懇談会」も開催。→



Alpha Purchase

株式会社 アルファパーチェス

◆大手門前でチラシ配り<世論喚起>

※千代田区さくら祭り



恒例の千代田区さくら祭り期間中、大手門前で世論喚起のためのチラシを配布。今年は特にアジアからの外国人の方がたいへん目立った。

※大手門前で毎週土曜日 PR 活動中/ボランティアの方を募集中(8月中は休み)

◆日本城郭協会 50周年記念パーティ

公益財団法人・日本城郭協会創立50周年記念パーティーは6月10日



東京都庁第一本庁舎で行われ、当会の島田昌幸理事長はじめ、各地のお城関係者が多数出席しました。島田理事長は日本城郭協会の小和田哲男理事長らと親しく懇談され、広く城郭文化の振興に努めることを確認しました。日本城郭協会は1967年に発足、「日本100名城」選定、城郭展覧会、城郭セミナーなどを開催し、城郭文化の振興に努めています。(土屋)



■今後の行事予定

4月~12月：中期事業計画策定中
8/23(水)松平定知特別顧問を囲む会員ノ集い
10/3(火)第5回江戸城寄席(内幸町ホール)
11/4(土)-5(日)第7回カレーグランプリ
11/24-26、12/1-3 岩本町ファミリーバザール
12/22-24 第2回お城 EXPO(パシコ横浜)

編集後記

太田会長、松平特別顧問、吉田理事の対談をつぶさに経験し改めて、3人の皆さんの知識、経験、個性の豊かさに魅了されました。「一言一言」の魅力と全体のストーリーへの配慮、見事なバランスでした。(初鹿)

NPO法人 江戸城天守を再建する会

〒101-0051 東京都千代田区神田神保町 2-32 前川ビル 3 階

◇電話 03-6423-1882 ◇FAX : 03-6423-1897

◇メール info@npo-edomo.org

◇ホームページ <http://npo-edomo.org>

◇フェイスブック <https://www.facebook.com/npoedomo>

